



障害者スポーツ・フライングディスク、陸上

5月27日(日)、岐阜メモリアルセンター補助競技場で、フライングディスク競技が行われました。本校からは、高等部男子4人、中学部女子3人が参加しました。

飛ばした距離で勝負するディスタンスでは、高等部3年生のB君が、これまでの練習成果を発揮し30mを超える記録を出しました。中学部女子も頑張り、3年生のWさんがもう少しで20mに届く距離を記録しました。

的の輪を通過した数で競うアキュラシーでは、高等部男子の生徒達が、10投中8点2人、7点2人の好成績を挙げました。中学部女子は、5点2人、1点1人という結果でした。まだまだ経験が少ないので、練習を積んでこれからの活躍を期待しています。

また、岐阜メモリアルセンター長良川競技場では、陸上競技が行われ、高等部3年O君が立ち幅

跳びと50m走に出場し、50m走では、組2位と健闘しました。



心に残った言葉

- ・ 就職できるような教育、就職させることだけが人間の目的ではない。福祉施設の利用であっても、他人の存在を知り、他人のことを思いやる大人になれるよう親たちも支援者も心がけ、一人ひとりの特性を理解しながら自閉症児者に生を押しやるまで寄り添ってほしい。(水野佐知子 自閉症協会会長「会報」94号より)

- ・ 障がいとは何か。障がい者はいません。障がい児もいません。そもそも障がいとは本人が持っているのではなくて環境とのかかわりの中で起きてくる活動とかの参加の制約、それを障がいと言います。障がいは社会が責任をもって本人の利益のために使う言葉です。公的な言葉なのです。……社会がそこに理解ときちんとした支援を公的に行う、だから障がいという言葉があるのです。

(平澤紀子 岐阜大学教授「H29 高等学校生徒指導主事会議・講演録」より)

※6月1日(金)に、クラウンサーカス観賞という全校行事を行い、児童生徒に大好評でした。土岐織部ライオンズクラブにお力添えいただき、ライオンズクラブ国際協会の寄付による事業であったことをお知らせしておきます。

